



一般社団法人日本解剖学会

2019年度
定時社員総会

資料

日 時：2019年 3月27日(水)
10:50~12:00

会 場：朱鷺メッセ
マリンホール（A会場）

2019年度定時社員総会
議 題

開会の辞

議長選出

I. 議事録署名人の選任

II. 理事長報告

III. 報告事項

1. 会員状況
2. 物故会員
3. 教授就任による新代議員紹介
4. 入会手続のオンライン化について
5. 日本解剖学会「若手研究者の会」発足について
6. 規約の一部改正について
7. 韓国解剖学会（KAA）との若手研究者交流協定締結について
8. その他

IV. 審議事項

1. 新永年会員の件
2. 申請による代議員の件
3. 2018年度事業および業務監査報告の件
 - ①学術集会開催状況
 - ②会議開催状況
 - ③学会誌の刊行状況
 - 1) 編集委員会
 - 2) A S I 編集委員会
 - ④委員会報告
 - 1) 認定解剖組織技術者資格審査委員会
 - 2) 解剖体委員会
 - 3) 解剖学用語委員会
 - 4) 海外交流委員会
 - 5) 教育・若手育成委員会
 - 6) アウトリーチ委員会
 - 7) 学術委員会
 - 8) 医療専門職教育委員会
 - 9) 倫理・利益相反委員会
 - 10) 男女共同参画推進委員会
 - ⑤研究の奨励および業績の奨励
 - ⑥内外学術団体との協力ならびに連絡
 - ⑦技術者認定
4. 2018年度決算および会計監査報告の件
5. 2019年度予算および事業計画の件
6. 2020年度予算執行の件
7. 第126回（2021年度）ならびに第127回（2022年度）総会・全国学術集会開催担当校の件
8. 2019・2020年度役員選任の件
9. 役員選出細則、ならびに委員会設置規程の一部改正の件
10. 著作権に関する規程制定の件
11. 定款、ならびに代議員選出規程の一部改正の件
12. 会計監査人交代の件
13. その他

V. 第125回（2020年度）日本解剖学会総会・全国学術集会準備状況

閉会の辞

【報告事項】

1. 会員状況：2018年12月31日現在

正会員	1, 951名	永年会員	155名	団体会員	48名
名誉会員	63名	賛助会員	24名	海外会員	15名

2. 物故会員

氏名	逝去日	会員種別	備考
渡 仲三 わたり なかぞう	2018. 2. 15	名誉会員	名古屋市立大学・名誉教授
廣澤 一成 ひろさわ かずなり	2018. 3. 18	元・理事	東京大学・名誉教授
永野 貞子 ながの ていこ	2018. 4. 21	永年会員	東京女子医科大学・元教授
橋本 一成 はしもと ひとなり	2018. 6. 8	名誉会員	大阪大学・名誉教授
山崎 英雄 やまざき ふさお	2018. 8. 1	名誉会員	札幌医科大学・元教授
尾崎 公 おざき ただし	2018. 8. 30	名誉会員	日本大学・名誉教授
池田 章 いけだ あきら	2018. 9. 3	名誉会員	川崎医科大学・名誉教授
柏谷 元 かしわや げん	2019. 2. 9	正会員	材木町美容外科・院長

3. 教授就任による新代議員

氏名	教授就任日	所属
吉子 裕二 よしこ ゆうじ	2012. 10. 1	広島大・歯・硬組織代謝生物学
寺山 隆司 てらやま りゅうじ	2018. 3. 1	広島大・歯・顎顔面解剖学
池上 浩司 いけがみ こうじ	2018. 4. 1	広島大・医・解剖学及び発生生物学
大野 伸彦 おおの のぶひこ	2018. 4. 1	自治医大・解剖学・組織学
隈部 俊二 くまべ しゅんじ	2018. 4. 1	大阪歯大・口腔解剖学
徳田 信子 とくだ のぶこ	2018. 4. 1	獨協医大・解剖学（マクロ）
藤谷 昌司 ふじたに まさし	2018. 4. 1	島根大・医・解剖学（神経科学）
船戸 弘正 ふなと ひろまさ	2018. 4. 1	東邦大・医・解剖学・微細形態学
栗本 一基 くりもと かずき	2018. 9. 1	奈良県医大・発生・再生医学
金井 克光 かない よしみつ	2018. 10. 1	和歌山県医大・解剖学第一
八代 健太 やつしろ けんた	2018. 11. 1	京都府医大・生体構造科学・解剖学
岩崎 広英 いわさき ひろひで	2018. 12. 1	群馬大・医・機能形態学

4. 入会手続のオンライン化について

2019年度よりオンラインによる入会手続を導入した。この場合の会費納入は初年度、銀行振込またはクレジットカード決済（手数料は入会者負担）となる。なお、次年度以降の会費納入は従来どおり、郵便振替か銀行自動引落、どちらかを選択する形式である。

5. 日本解剖学会「若手研究者の会」発足について

若手研究者同士の交流、情報交換を通して、解剖学の持続的な発展に寄与することを目的として、有志10名により設立準備委員会を発足させた。設立準備委員会では第124回総会・全国学術集会3日目（3月29日（金））ランチョン討論会を開催する予定である。

日本解剖学会「若手研究者の会」設立準備委員会

江角 重行（熊本大）（副委員長）

小川 典子（島根大）

甲賀 大輔（旭川医大）

近藤 誠（大阪大）（委員長）

仲田 浩規（金沢大）

鍋加 浩明（愛媛大）

日置 寛之（順天堂大）

藤田 幸（大阪大）

山岸 覚（浜松医大）（副委員長）

山崎美和子（北海道大）

（五十音順、敬称略）

6. 規約の一部改正について

一般社団法人日本解剖学会認定解剖組織技術者功労賞規約

（趣旨）

第1条 本賞は解剖学の教育・研究における解剖学技術職員としての長年の貢献に対し、贈呈されるものである。

（対象）

第2条 対象は勤続15年以上で認定一級解剖組織技術者の資格を有する技術職員または勤続20年以上で認定二級解剖組織技術者の資格を有する技術職員とする。日本解剖学会の会員資格は問わない。

（応募）

第3条 応募を希望する者は所定の推薦書、勤続年数を証明する書類、代議員からの推薦書各一通を毎年**4月12日**末迄に日本解剖学会事務局に提出する。

（審査）

第4条 審査については理事会にて行う。

（表彰）

第5条 各受賞者には賞状ならびに副賞を贈呈し、社員総会の席上で表彰するものとする。

（規約の改廃）

第6条 本規約の改廃は、理事会にて議決し、社員総会にて報告する。

附則

1. 本規約は平成25年2月9日から施行する。

2. 本規約は平成25年11月30日から施行する。

3. 本規約は平成28年2月17日から施行し、3月29日より適用する。

4. 本規約は平成30年12月16日から施行し、平成31年3月27日より適用する。

7. 韓国解剖学会（KAA）との若手研究者交流協定締結について

昨年、韓国・釜山で開催された8th APICAへ日本解剖学会より4名の若手研究者を派遣した。これを機に韓国解剖学会（KAA）との若手研究者の相互交流を行いたく、協定書を締結した。



MEMORANDUM OF UNDERSTANDING between the Japanese Association of Anatomists (JAA) and the Korean Association of Anatomists (KAA)

The following MOU is made between JAA and KAA.

(1) The purpose of the MOU:

“Promotion and exchange of young anatomists in Japan and Korea”

(2) Young researcher exchange program:

JAA and KAA agree to organize a symposium or a workshop (hereafter ‘joint symposium’) for young anatomists from both organizations. The joint symposium could be incorporated into the annual meetings of each organization, who will take a turn each year to host this joint symposium. Symposia/workshop speakers should include over 60% of young researchers. In case either organization host an APICA, joint symposium will be merged in to APICA program unless each organization hold a separate annual meeting of their own. Young anatomists will be selected and financially supported by their own organization.

(Option) Visiting young anatomists may visit schools of their interests in hosting country before or after symposium to set up a foundation for educational or research collaboration. This should be based on mutual interest from both parties (or any affiliated schools of each organization) and should be planned before the symposium. The local hosting institute may set up a financial support for travel expense for this collaboration visit.

In witness hereof, the both parties have executed this MOU

The Japanese Association of Anatomists (JAA)



岡部 繁男

Prof. **Shigeo Okabe**, MD, PhD
Chair of the Executive Board of JAA

Date: 1 March, 2019

The Korean Association of Anatomists (KAA)



안연우

Prof. **Kyu Youn Ahn**, MD, PhD
Chair of the Executive Board of KAA

Date: 21 Feb, 2019

The following are not written in the MOU, guidelines for operation

In the exchange session, at least three anatomists will be sent from each association.
Breakdown of the three:

1. One from the overseas exchange committee members.
2. Two or more young researchers: Publicly invited at a conference and selected based on abstract submitted by two or more.
3. Each association will select young researchers according to their situation.

- For each of the above three people, each anatomical association aids for traveling expenses.
- People who received assistance post a brief 2-page report in anatomical journal

8. その他

【審議事項】

1. 永年会員の件

氏 名	所 属 等	備 考
さかい たつお 坂井 建雄	順天堂大・医・解剖学・生体構造科学（教授）	永年会員推薦規約（1）
さかなか まさひろ 阪中 雅広	愛媛大・医・機能組織学（教授）	永年会員推薦規約（1）
さ さ き かつのり 佐々木 克典	信州大・医・組織発生学（教授）	永年会員推薦規約（1）
さとう てつじ 佐藤 哲二	鶴見大・歯・解剖・組織細胞学（教授）	永年会員推薦規約（1）
さとう よういち 佐藤 洋一	岩手医大・医・医学教育学（教授）	永年会員推薦規約（1）
ひらた かずあき 平田 和明	聖マリアンナ医大・解剖学（教授）	永年会員推薦規約（1）
ふじくら よしひさ 藤倉 義久	大分大・医・分子解剖学（教授）	永年会員推薦規約（1）
まつむら じょうじ 松村 譲児	杏林大・医・解剖学第1（教授）	永年会員推薦規約（1）
みぞぐち あきら 溝口 明	三重大・医・ゲノム再生医学（教授）	永年会員推薦規約（1）
やまだ ひさお 山田 久夫	関西医大・解剖学第1（教授）	永年会員推薦規約（1）
わたなべ ひろき 渡邊 弘樹	奥羽大・歯・生体構造学・口腔組織学（教授）	永年会員推薦規約（1）

（五十音順）

一般社団法人日本解剖学会名誉会員・永年会員推薦規程

第4条 理事長は理事会の推薦に基づき、社員総会の議を経て、以下の者に永年会員の称号を贈ることができる。

- （1）代議員として10年以上の経歴を有し、終身会費を納入した65歳以上の正会員。
- （2）前項の規定に関わらず、本学会の発展のために永年の功労があったと認められる正会員。

2. 申請による新代議員の件

氏 名	所 属 等（申請時）	入会年	推薦代議員
いとう てつふみ 伊藤 哲史	金沢医大・解剖学Ⅱ（准教授）	2002	本間 智
おかべ あきひと 岡部 明仁	西南女学院大・保健福祉・栄養学（教授）	2002	高山 千利
くさかべ たけし 日下部 健	山口大・共同獣医・生体機能学・解剖学（教授）	2001	篠田 晃
くろいわ みえ 黒岩 美枝	横浜薬大・機能形態学（教授）	1984-2003 2014-	徳田 信子
みわ ようこ 三輪 容子	日本歯大・生命歯・解剖学第1（准教授）	2005	佐藤 厳
もり てつじ 森 徹自	鳥取大・医・保健・生体制御学（教授）	1993-2003 2007-	篠田 晃

（五十音順）

一般社団法人日本解剖学会代議員選出規程申し合わせ

当分の間、被選挙権者については下記のとおりとする。

- （1）医学または歯学の大学等の解剖学教育・研究担当専任教授である正会員とする。但し、代議員が解剖学以外の教育・研究職等に転じた場合でも、代議員の資格が継続され、被選挙権も有するものとする。
- （2）正会員として通算10年以上の経歴を有し、解剖学の教育・研究について、前号の者と同等以上の寄与をなしていると社員総会にて承認された者。
- （3）65歳を超えて医学または歯学の大学等の解剖学教育・研究担当専任教授である場合は被選挙権を有する。
- （4）欠員が生じている場合に限り、（1）の申請を行った正会員は常務理事会の決議を経て、社員総会へ報告、（2）の申請を行った正会員については理事会での決議を経て、社員総会に諮るものとする。

3. 2018年度事業および業務監査報告の件

①学術集会開催状況

全国学術集会	会 頭	開催期日	会 場
第123回全国学術集会	小澤一史（日本医大・解剖学・神経生物学）	3月28日～30日	日本医科大学武蔵境校舎・日本獣医生命科学大学

支部学術集会	大会長	開催期日	会 場
第64回東北・北海道支部連合	谷口和美（北里大・獣医・獣医解剖学）	9月1日～2日	北里大学獣医学部十和田キャンパス
第28回関東支部懇話会	森 千里（千葉大・医・環境生命医学）	6月30日	千葉大学医学部
第106回関東支部	河合良訓（東京慈恵会医大・解剖学第1）	10月20日	東京慈恵会医科大学西新橋キャンパス
第78回中部支部	吉田淑子（富山大・医・再生医学）	10月13日～14日	富山県民会館
第94回近畿支部	榎本秀樹（神戸大・医・生理学細胞生物学・神経分化再生）	11月17日	神戸大学医学部
第73回中国・四国支部	鶴尾吉宏（徳島大・医・顕微解剖学）	10月20日～21日	徳島大学長井記念ホール
第74回九州支部	倉岡晃夫（佐賀大・医・生体構造機能学・解剖学人類学）	10月27日	佐賀大学鍋島キャンパス

②会議開催状況

会議名	開催期日	会 場	会議名	開催期日	会 場
常務理事会 第1回	2月 3日	東京医科歯科大学	理事会 第1回	3月27日	日本医科大学武蔵境校舎・日本獣医生命科学大学
第2回	3月27日	日本医科大学武蔵境校舎・日本獣医生命科学大学	第2回	9月11-14日	E-mail持ち回り
第3回	6月10日	東京医科歯科大学	第3回	9月27-28日	E-mail持ち回り
第4回	9月 1日	東京医科歯科大学	第4回	12月16日	A P 東京八重洲通り
第5回	12月16日	A P 東京八重洲通り	定時社員総会	3月29日	日本医科大学武蔵境校舎・日本獣医生命科学大学

③学会誌の刊行状況

2018年度編集委員会活動報告書

編集委員会
委員長 木山 博資

1. Anatomical Science International (ASI) 編集・発刊報告
別記の如く予定通り刊行された（大塚愛二委員長）

2. 解剖学雑誌 編集・発刊報告

1) 予定通り以下のごとく刊行された。

a) 掲載論文数内訳

巻号	特集	寄書	新任教授紹介	追悼文	奨励賞受賞者紹介	地方会抄録	その他	計
93	0	2	12	10	7	0	3	34

b) 頁数総計

巻号	特集	寄書	新任教授紹介	追悼文	奨励賞受賞者紹介	地方会抄録	その他	計
93	0	5	18	20	13	0	3	59

※地方会抄録の掲載は学会ホームページに移行済み。

※その他：書評、各種「お知らせ」、「会議記録」。

2) 解剖学雑誌のバックナンバーのPDF化について。東京大学や岩手医科大学から寄付いただき第1巻から80巻までの冊子全てをとり揃えることができた。これを用いて2019年に順次PDF化を行うことに決定した。PDF化後は学会ホームページに掲載する予定である。

以上

2018年度ASI編集委員会活動報告書

ASI編集委員会
委員長 大塚 愛二

2018年度のASIの活動状況について、下記の通りご報告申し上げます。

1. 総括

平成21年度（2009年度）に出版社がSpringer社に変更されてから10年目を迎えた平成30年度も計画通りに93巻1, 2, 3, 4号の4号4冊を発行することができ、ASIは順調に推移している。2018年には年間投稿数が280と過去最高値を超え、それにもなって論文の受理件数も増えている。2017年末に新契約が締結され年間総ページ数はおよそ630ページ、60本の記事の出版となり、印刷待ちの記事はなくなったが、今後、良質の論文を多数掲載することが課題となっている。カラーページ印刷の無料化により、著者負担が軽減している。

2. 出版実績

2018年度の出版：93巻第1号から93巻第4号までの4号4冊

頁数：568頁、論文数：70（内訳は下表）

出版した論文数（カテゴリー毎）								
	Editorial	Overview	Review article	Original article	Case report	Method paper	Letter to the Editor	計
93-1	0	0	3	13	2	2	0	20
93-2	0	0	2	16	2	0	0	20
93-3	0	0	0	8	2	0	0	10
93-4	0	0	0	17	2	0	1	20

3. 投稿論文数

投稿論文数は増加している。2018年度（2018年1月～2018年12月末）の総投稿論文数、カテゴリー毎の投稿数、受理数は下表の通りである。Accept数、Reject数ともに増加している。

カテゴリー毎の投稿数、受理数（2018年1月1日～12月31日）								
カテゴリー	Original article	Review article	Case report	Editorial	Letter to the Editor	Method paper	計	
総投稿数	213	11	42	1	6	7	280	
Accept	22	4	3		1	1	31	
査読及び改訂中	26		3		1	1	31	
Reject&Withdrawal	165	7	36	1	4	5	218	

4. 過去10年間の被検索ダウンロード数

過去10年間の被検索数は下表のように推移している。2018年のFull-textダウンロード数は、44,129件で、2016年以降4万件以上を維持している。

Service	2009 YTD total	2010 YTD total	2011 YTD total	2012 YTD total	2013 YTD total	2014 YTD total	2015 YTD total	2016 YTD total	2017 YTD total	2018 YTD total
Abstracts	34,169	56,704	43,810	*1	*1	*1	29,733	20,407	11,459	27,466
Full-text Download	18,900	18,868	17,579	15,641	17,577	16,589	21,741	41,865	45,518	44,129

*1 2012-2014年のデータはない。

5. Impact Factor

ASIは2007年よりIFがついた。2007年から2009年まで下降傾向であったが、引用数の多かった心血管系発生の特集の影響により2010、2011年は上昇に転じた。しかし、その特集号が計算対象外となった2012年は再び下降したが、その後回復した。2016年以降には退職教授への執筆依頼による総説が掲載され、2017年には特集号も発行されて、被引用数が増え、1.330と大幅に上昇した。

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
IF	1.161	0.594	0.506	0.719	0.833	0.625	0.839	0.827	0.861	0.961	1.330

謝辞

2006年のOn line投稿システム導入後、投稿数は上昇し、2012年までは年間約140本、2013年以降は200本を越え、さらに増加傾向にある。昨年の投稿数は280本、採択率は約11.0%、査読・改訂中約11.0%であり、査読者はのべ400名以上である。ASI刊行のためにご尽力を賜りました多くの方々に、深甚なる謝意を申し上げます。

以上

④委員会報告

2018年度解剖組織技術者資格審査委員会活動報告書

解剖組織技術者資格審査委員会
委員長 佐藤 哲二

2018年度の活動状況について、下記の通りご報告申し上げます。

1. 解剖及び細胞組織技術者試験実施状況

試験を実施し、以下の者が合格と認定された。

一級解剖技術者

平川 正人

(岩手医科大学医学部解剖学講座細胞生物学分野)

二級解剖技術者

小山卓也 (和歌山県立医科大学解剖学第一講座)

東 真史 (旭川医科大学解剖学講座)

一級細胞組織技術者

平川 正人

(岩手医科大学医学部解剖学講座細胞生物学分野)

二級細胞組織技術者

大橋充代 (聖マリアンナ医科大学解剖学教室)

星野誠子 (聖マリアンナ医科大学解剖学教室)

小山卓也 (和歌山県立医科大学解剖学第一講座)

2. 認定一級技術者試験問題の公開について

下記の一級技術者試験問題の公開案を作成した。

一級技術者試験 (共通版)

一級技術者試験 (組織版)

一級技術者試験 (解剖版)

3. 技術職員における現状と課題についてのアンケート調査

解剖体委員会、教育・若手育成委員会と共同で、平成30年11月30日 (金) を締切として、解剖学関連機関にアンケート調査を実施した。

以上

2018年度解剖体委員会活動報告書

解剖体委員会
委員長 佐藤 洋一

委員会では、厚生労働省が予算措置したCST (Cadaver Surgical Training) の実態調査をおこなった。全国の医学系・歯学系大学の111施設 (のべ数) にアンケートを送付したところ、80施設から回答を得た。アンケート内容は、CSTの実施状況と、報告書の提出状況、解剖体処置方法、実行する上での問題点と課題が主なもので、集計事務労力軽減のためエクセルファイルによる調査方法を取り入れた。

その結果、CST実施施設は27.5%であるが、全ての施設が日本外科学会CST推進委員会への報告書「実施報告書」を提出しているわけではないことが明らかになった。ガイドラインを定めた意味や意義が忘れられているとしたら問題である。CST施行実態であるが、CSTの件数と解剖体数は、微増傾向にあるが、CST件数は施設間で差があることが明らかになった。なお、Fresh Cadaver が行われているところは少なく、チール法による固定・防腐が一般的であった。問題点として、CST実施にあたっては解剖体収集と処置以外の作業も、解剖学教室がかかわっている場合が多く、解剖学教室に負荷がかかっていることがあげられた。また、今後、CSTの予定が無い (検討していないも含む) 施設がかなり多く、その理由が人的・物的資源不足 (= 資金不足) に起因するとの回答を得た。

以上の結果をもとに、第123回日本解剖学会総会・全国学術集会 (3月29日) でワークショップを開いた

(WS3 Cadaver Surgical Trainingの現状と課題)。各大学のCSTの現状はアンケート結果から予想されるものであったが、外科サイドあるいは行政官との認識のズレがクローズアップされたことは、今後のCST活動において寄与するものと思われた。

以上

2018年度解剖学用語委員会活動報告書

解剖学用語委員会
委員長 坂井建雄

解剖学用語は医学用語の根幹をなすものであり、本委員会では日本医学会や一般から日本解剖学会へ用語について質問や要望があった場合に、必要に応じて対応・回答している。

1) 日本医学会から2008年1月12日付けで各分科会に対して、遺伝学用語について意見を求められ、用語委員会として意見をまとめて常務理事会に報告し、日本解剖学会から日本医学会に回答された。

この問題は2017年9月に日本遺伝学会が『遺伝単』を発行し、「優性・劣性」を「顕性・潜性」に変更する案を示し、マスコミが取り上げたことに端を発している。日本解剖学会の立場は、用語の変更は安易に行うべきではないというものであった。

これに関して2018年12月11日に日本医学会の公開シンポジウム「適切な遺伝用語のあり方」が開催され、用語委員長（坂井）が医学系学会（日本医史学会）からの立場で講演した。その趣旨は、解剖学用語の歴史を例に用語が学術・文化・社会の貴重な資産であること、漢字を用いた日本語の用語は訴求力が強いこと、用語の変更は慎重にすべきであること、「優性・劣性」を現在の公式の用語として認め、日本遺伝学会の提案を撤回することを提言した。シンポジウムの概要を用語委員会および常務理事会に報告した。

2) 生物科学連合から加盟学会に対して、「高等学校の生物教育における重要用語の選定について」（日本学術会議第24期生物科学分科会からの報告）へのコメントを求められ、用語委員会として意見をまとめて常務理事会に報告し、他の学会の対応も考慮しながら、日本解剖学会から生物科学連合に回答された。

同報告は、高等学校での生物教育で使用される用語が膨大であることが学習上の障害となり、また暗記偏重であるとの誤解を生んでいることから、重要用語を選定するという趣旨で出されたものである。日本解剖学会の立場は、生物学用語と医学用語のずれをなくすように要望するものであった。

3) 厚生労働省から日本医学会を通じて2019年1月8日付けで日本解剖学会に対して、国際疾病分類第11回改訂版（ICD-11）の中でとくに解剖学関連用語について和訳作成の協力を求められた。用語委員会が担当し、用語委員で作業を分担することとした。

4) 日本解剖学会は、日本医学会の分科会でもあり、その医学用語管理委員会が開催する会議に出席しており、また用語委員長（坂井）は医学用語管理委員会のメンバーになっている。本年度の日本医学会分科会用語委員会は2018年12月18日（火）に日本医師会館で開催され、松村譲児教授（杏林大学）が出席した。6つの話題が提供された。①ICD-11のわが国への適用にむけて（厚生労働省、森桂）、②医学用語辞典WEB版のメンテナンス報告（医学用語管理委員会、小野木雄三）、③遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ報告（遺伝学用語改訂に関するWG座長、辻省三）、④「奇形」を含む医学用語の置き換え提案（日本小児科学会、森内浩幸）、⑤AI関連技術と医学用語の現状課題（奈良先端科学技術大学、荒牧英治）、⑥学術分野における著作権（学術著作権協会、石島寿道）。

本委員会が編集した『解剖学用語 改訂13版』が2007年3月1日に医学書院から発行された。本用語集に採用された新しい解剖学用語は、解剖学の教科書などに広く採用されており、用語の標準化に大きな役割を果たしたといえる。しかし発刊から10年を経て、用語集の販売部数はなお伸びていないのが現状である。

以上

2018年度海外交流委員会活動報告書

海外交流委員会
委員長 吉川雅英

APICA (Asia Pacific International Congress of Anatomists)が2018年10月28日から31日の予定で韓国・釜山で開催された。

【8th APICAにおける若手研究者支援の概要】

1. 対象者 本年4月1日時点で満39歳未満の日本解剖学会会員

2. 対象者数 最大4名

（うち2名を10月28日（日）15:20-17:20に開催されますYoung anatomist sessionへ学会として推薦する。その場合、ポスターから回ってもらう）

3. 助成費用 旅費支援として7.5万円

APICA終了後、来年9月発行の解剖学雑誌に今回の参加に関するレポートを掲載することを義務付

ける

4. 応募方法

- A. 8th APICAサイト上より演題登録を行う <http://apica2018.org/>
- B. 登録した抄録を9/7正午までに学会事務局へ提出する

5. 選考方法等

9/7正午以降、海外交流委員会、ならびに理事会でメール持ち回り審査の上、決定。9/14PMまでにYoung anatomist sessionへ推薦する2名をProf. Rhyu (4月に来日したAPICAの役員) にメールする。応募者への選考結果通知は9/18以降、郵送にてお知らせ。

以上の様な内容で募集を行い、以下の4名について支援を行った。

谷田任司 京都府医大・解剖学・生体構造科学
今崎 剛 神戸大・医・生体構造解剖学
高橋光規 山梨大・医・解剖学・構造生物学
小田賢幸 山梨大・医・解剖学・構造生物学

【今後の日本・韓国間の交流について】

APICA終了後の10月31日午後に、日本解剖学会からは岡部繁男（東京大学）、吉川雅英（東京大学）が、Korean Association of Anatomists (KAA)側8名と会談し、今後の日本・韓国間の交流について話し合った。

○2019年3月開催の日本解剖学会総会については、準備期間が短いことから具体的な活動は見送る。

○以下の学会について、3～4名の若い解剖学者をお互いに派遣する。旅費は、派遣側が負担し、受け入れ側は学会参加費の免除を実施する。

2019年秋 韓国解剖学会

2020年3月 日本解剖学会総会

○若手研究者の相互訪問の機会を利用して、日本・韓国間で、研究室訪問、共同研究の立案などの相互研究交流を推進するように努力する。

○学会と研究交流はなるべくリンクさせるが、場合によっては時期・場所を別途設定しても良い。

○相手国の研究者が参加するセッションを含め英語使用を奨励し、参加することに意義のある形とする。

○以上を話し合った結果として、岡部先生とIM J00 RHYU先生が報告事項7の文書（英文：Agreement on cooperation between the Japanese Association of Anatomists and the Korean Association of Anatomists）を作成した。

以上

2018年度教育・若手育成委員会活動報告書

教育・若手育成委員会
委員長 中村桂一郎

日本医科大学武蔵境校舎で行われた第123総会・全国学術集会会期内（第3日）に委員会を開催し、以下の事項について討議した。

(1) 解剖学教育の観点から：今回、解剖学教育に焦点を当てることとして、本委員会において実施した事前アンケートの結果について報告された。医学教育現場の現状把握を目的として実施された本アンケートは、医歯学部解剖学および関連講座について、専任教授が配置されている講座の教授（医学部164、歯学部46、合計210）に対して実施されたものであり、学会事務局支援のもと、7つの大項目にわたるWebアンケートを作成し、回答期間を3月1日から12日正午までとした。アンケートの結果、組織学、発生学、神経解剖学、細胞生物学のおおよその担当教員数や時間数が明らかになり、自由記載では、問題点や独自の対処法・改善点について様々な意見が集まった。ただし、回収率は37.6%（210）と低く、対象講座の教育分担の学部内での立場、担当科目が混在している等の理由から、アンケート結果について、更なる整理・検討が必要であることが指摘された。

また、本委員会において前年度に担当したモデルコアカリキュラム英語化支援作業から見てきた医学教育全般の中における解剖学教育の位置付け、さらには、医学教育の水平統合・垂直統合など分野別認証評価にも深く関わるこれからの解剖学教育のあり方について、大学間お互いの状況を知り、各担当者個別の問題点把握と解決策を共有して、議論する場が求められる。

(2) 若手育成の観点から：解剖学・口腔解剖学担当の新任教授が必ずしも解剖学教育の経験が豊富でないケースが増えている実情から、日本解剖学会支援のもと、教育者間の円滑かつ積極的交流を可

能とし、解剖学教育経験の少ない教員への支援ができる環境形成の必要性について述べられ、さらには、若手人材の確保・育成について討論された。

第124回日本解剖学会学術講演会第1日午後に「肉眼解剖学周辺の解剖学教育のあり方-特に、組織学・細胞生物学・発生学・神経解剖学教育の視点から」というタイトルのもとワークショップを開催した。小林直人教授（愛媛大）、佐藤洋一教授（岩手医大）、佐々木克典教授（信州大）、岩永敏彦教授（北海道大）、太田啓介准教授（久留米大）に講演いただき、解剖学授業における画像や動画の利用、アクティブラーニングの方法など、新たな教授法について紹介され、討論された。

以上

2018年度アウトリーチ委員会活動報告書

アウトリーチ委員会
委員長 佐藤 真

第123回総会・全国学術集会開催時に委員会を開催した。また、その後、適宜メール審議を実施した。以下、主な活動（審議内容）を報告する。

1. ホームページへのアクセスについて

解析を引き続き実施した。2017年度は2016年度と変わらない状況であった。

2. 学会としてのアウトリーチ活動について

HPの広告収入UPに向けた活動が、新たに本委員会のミッションのひとつとなった。委員に活動をお願いすると同時に、委員長及び委員、事務局にて、総会時に企業展示各社をすべて廻り、HPへの広告のお願いを行った。

3. HPの閲覧数増加を図るための手法（コンテンツやその内容の工夫）について

議論を行い、まずはエッセイなどの掲載によるコンテンツの充実を図ることとなった。2018年度において、委員長が中心となり、候補となる会員のコンテンツ執筆者を選定し、働きかけを行っていくこととなった。

また、ホームページデザインについては、委員長、HP作成に経験の深い委員、事務局の三者で進め、たたき台を作成し、それをもとに意見を集約することとなった。

4. 第30回日本医学会総会分科会特別展示について

パネル展示をおこなうとの学会の方針を受け、医学会総会側から依頼の詳細が明確になった後、案を作成し、委員会で確認することとなった。本件は平成30年12月にすでに実施した。

以上

2018年度学術委員会活動報告書

学術委員会
委員長 阪上 洋行

第123回解剖学会総会・全国学術集会の会期中(2018年3月28日)に委員会を開催し、議論し合意した本年度の活動方針に沿って、以下の活動を行った。

- (1) 第123回総会・全国学術集会での参加者アンケート調査：本年度新たな試みとして、参加者アンケート調査をWeb上で実施した。その結果、例年の紙面アンケート形式での参加者数(50～60名、多い時で130名程度)を大きく上回る239名の参加者からの回答を得ることができ、これらを集計解析し、理事会・常務理事会に報告した。

- (2) 第124回日本解剖学会総会・全国学術集会における学術委員会主催の他学会連携シンポジウム案をメール会議で検討し、以下の内容で企画開催することとした。

- ①生理学会連携シンポジウム：「内耳蝸牛・聴覚伝導路における音信号伝達・処理メカニズムの形態学的・生理学的基盤」

オーガナイザー：鶴川 真也(名古屋市立大・医・機能組織学)

日比野 浩(新潟大・医・分子生理学分野)

- ②顕微鏡学会連携シンポジウム：「クライオ電子顕微鏡による新時代の解剖学」

オーガナイザー：小池 正人(順天堂大学・医・神経機能構造学)

小田 賢幸(山梨大学・医・構造生物学)

以上

2018年度医療専門職教育委員会活動報告書

医療専門職教育委員会
委員長 齋野 朝幸

第123回全国学術集会期間中の平成30年3月30日（金）に、医療専門職教育委員会の会合が開かれ、以下の様な事が話し合われた。

- (1) 平成29年9月に理学療法士学会から解剖学会宛に出された「理学療法士養成課程における解剖学教育のあり方に関する検討会の設置に関する依頼」に対する対応を検討するWGでの今までの検討結果、およびこれまでの理事会における検討状況、主な論点などについて説明があった。これに対し、各委員からさまざまな意見がだされた。これを受けて八木沼理事から、本委員会での議論も含めて今後も理事会で検討を続ける旨の発言があった。
- (2) その他、各委員から来年度の解剖学会で医療専門職教育委員会としてワークショップを企画するかどうかについて話し合われ、今後、医療専門職教育者育成に関する現状把握・課題をさらに洗い出し、各種課題について、メーリングシステムを用いて討議を重ね、寄せられた意見を汲み上げ、可能であれば今後企画する予定である。

ワークショップについて今期は実行できなかった。引き続き検討を要する。

以上

2018年度倫理・利益相反委員会活動報告書

倫理・利益相反委員会
委員長 原田英光

1) 第122回全国学術集会期間中の平成30年3月28日（水）に、倫理委員会の会合が開かれ、以下の様な事が話し合われた。

- ・2018年3月27日 第123回日本解剖学会学術大会サテライトシンポジウム開催した。講師：有江文栄 先生（研究倫理コンサルタント：上智大学生命倫理研究所）「再生医療と研究倫理」
- ・来年度日本解剖学会学術大会において、研究倫理に関するシンポジウムを開催する予定について。（第124回日本解剖学会学術大会WS3 2019年3月28日 9:00~10:50 解剖学研究における倫理とその対応）
- ・日本医学会の指導に従い、倫理委員会と利益相反の委員会は分けた方が良いのでは言う意見を理事会に上げて検討していただいていることを報告した。
- ・サージカルトレーニングについて。解剖学会の理事会で新規のガイドラインの作成を行っていること。また大学によって取り組む体制が大きく異なること。医療機器開発にサージカルトレーニングを利用する点の問題点（利益相反などの）について意見交換や報告があった。
- ・解剖実習などのビデオ映像による連携大学との教育システムの構築に関する問題点について意見交換を行った。不用意に解剖実習の内容や標本を公開してしまうことは問題があり、注意が必要である。どのような制限の基で連携大学に映像を提供するかは協議が必要であろう。
- ・解剖体を用いたゲノム研究のあり方について意見交換を行った。基本的には解剖学会の倫理委員会では研究倫理の審査を行う体制ではないので、各機関での倫理委員会の判断にゆだねるのが原則である。しかし、個人情報保護法による要配慮個人情報としてどのように取り扱うべきか。同意の取り方はどのようにすべきか。遺族への配慮をどうするか。社会的な影響などを踏まえて解剖学会からガイドラインを提示すべきなのか。結論には至らなかったが、引き続き協議をすることになった。

2) 日本医学会主催の「第9回日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）総会／第6回日本医学会分科会利益相反会議総会」には委員長（原田）が代表として参加した。主な内容は、雑誌編集における利益相反についてのアンケート結果、組織としての利益相反についてのアンケート結果について報告がなされ、それぞれについての合同討議がなされた。

また日本医学会医学雑誌編集ガイドラインの改訂を作製中であることが報告された。

2018年度男女共同参画推進委員会活動報告書

委員長 徳田信子 副委員長 松崎利行
委 員 青山裕彦、依田浩子、城戸瑞穂、黒岩美枝、
城倉浩平、藤山文乃、吉田成孝（50音順）

1. 女性研究者に関する実態調査・動態調査

本学会に於ける女性研究者に関する実態を先ず把握する目的で、平成25年度から行っているものを一部変更した平成26年度日本解剖学会会員実態調査（第120回総会・全国学術集会事前登録時入力アンケート調査）と同じ形式で、第123回総会・全国学術集会のご協力のもと、同事前登録時にアンケート調査を行った。

2. 男女共同参画学協会連絡会および大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会への参加

平成24年7月に男女共同参画学協会連絡会（現在、STEM分野における約100の学協会が加盟）に加盟して以来、連絡会・運営委員会や講演会に委員が参加している。今年度は、8月の第16期運営委員会に徳田が出席し、他学会との情報を共有した。連絡会から提示された審議事項に関して、各委員も不定期にメール会議へ参加している。2018年度は、医学部医学科の入学試験のあり方に端を発する提言の内容に対して活発な議論が行われた。また、12月の大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会には徳田が出席した。

3. 第5回男女共同参画推進ランチョンセミナーの開催（第123回総会・全国学術集会）

平成30年3月28日、第123回総会・全国学術集会（武蔵野市）において、第5回男女共同参画推進ランチョンセミナーを行った。演者を赤松良子氏（公益財団法人日本ユニセフ協会会長）にお願いし、「差別と闘う」という演題でご講演を頂いた。赤松氏は国連代表部公使・特命全権公使、文部大臣を歴任され、男女雇用機会均等法の成立に中心的役割を果たされており、「先駆者」として研究者を鼓舞された。会場にはさまざまな世代の研究者が100名以上集まり、男女問わず学会員にとって有意義なご講演となった。

尚、平成30年6月から、日本解剖学会ホームページに「男女共同参画について」を掲載して頂いている。会員非会員を問わず、これまでのランチョンセミナーの演者・タイトルおよびポスターが以下URLで閲覧可能である。http://www.anatomy.or.jp/jab-gender_equality.html

4. 交流ブースの設置（第123回総会・全国学術集会）

以前より、上記ランチョンセミナーの参加者にアンケートの記載をお願いしていた。より多くの方に気軽に意見を書いて頂く目的で、男女共同参画について100文字程度の「つぶやき」を無記名で書いて頂くという試みを行った。つぶやき用紙はランチョンセミナー会場およびポスター会場のブースで配布した。記入して頂いた用紙はブースに掲示し、全国（各委員の大学所在地）の銘菓を食べながら読めるようにした。

5. 今後の計画

平成31年3月に開催される第124回総会・全国学術集会（新潟市）において、「男女共同参画ー私の考え・私の夢ー」として第6回男女共同参画推進ランチョンセミナーを行う。これまでは教授や管理職に経験を語って頂くような講演が中心であったが、今回は、アンケートの意見を反映し、研究者が現在直面している問題とその対策についてのお話を伺うことにした。講演者はお二人で、江藤みちる先生（三重大学大学院医学系研究科発生再生医学・助教）に介護と仕事（研究・教育）の両立についてお話し頂くとともに、中野享香先生（新潟大学男女共同参画推進室・専任准教授）に新潟大学男女共同参画推進室の事業について、「教育・研究活動と介護との両立の支援」を中心に、具体的な解決策をご講演頂く予定である。ご講演の前に、前年のつぶやき用紙やアンケートの自由記載欄に記入して頂いた内容も報告する。また、第124回総会・全国学術集会でもつぶやき用紙を準備し、上記4と同様の交流ブースの企画を行う。

今後も学会内における男女共同参画推進委員会の存在を各会員に広く認知してもらい、ランチョンセミナーへの積極的参加をさらに促す必要がある。そのためにチラシやポスターの配付なども含め、様々な広報活動も積極的に実施していく。

⑤研究の奨励及び業績の奨励

2018年度日本解剖学会奨励賞受賞者

氏 名	申 請 課 題	該当分野	所 属
植村 武文	メンブレントラフィックの機能・形態	細胞生物学	福島県医大・解剖・組織学
小林 裕人	胃壁細胞におけるエストロゲン合成分泌に関する研究	組織学	山形大・医・解剖学第一
田中 康裕	大脳皮質と関連皮質下領域が作るループ構造に関する機能形態学的研究	神経解剖学	東京大・医・細胞分子生理学
平嶋 伸悟	新機軸イメージングによる歯根膜形成過程の解明	歯学	久留米大・医・解剖学・顕微解剖・生体形成

(五十音順)

2018年度日本解剖学会認定技術者功労賞受賞者

氏 名	所 属
入口比呂志	長崎大・医・肉眼解剖学
山宮 公子	愛媛大・医・生体機能解析学・解剖学発生学

(五十音順)

⑥内外学術団体との協力ならびに連絡

後 援	・第38回人体解剖トレーニングセミナー
協 賛	・3次元画像コンファレンス2018 ・日本顕微鏡学会第74回学術講演会

- 1) 生物科学学会連合、日本脳科学関連学会連合、及び、男女共同参画学協会連絡会における活動協力（意見交換、声明発表、機構強化について）
- 2) 基礎医学系学会（生理学会、薬理学会、生化学会）、日本顕微鏡学会との意見交流、声明発表
- 3) 日本医学会、日本医学会連合における活動協力
- 4) APICA (Asian Pacific International Congress of Anatomists)
第8回APICA開催(2018年)に向けての調整と協力
- 5) 欧米解剖学会との交流
アメリカ解剖学会とはAPICAの枠組みの中で行う。Anatomische Gesellschaftとの交流は継続

⑦技術者認定

1級技術者合格者

氏 名	所 属	種 別
平川 正人	岩手医大・医・解剖学・細胞生物学	解剖・細胞組織

(五十音順)

2級技術者合格者

氏 名	所 属	種 別
大橋 充代	聖マリアンナ医大・解剖学	細胞組織
小山 卓也	和歌山県医大・解剖学第1	解剖・細胞組織
東 真史	旭川医大・解剖学・機能形態学	解剖
星野 誠子	聖マリアンナ医大・解剖学	細胞組織
丸山 洋平	福島県医大・神経解剖発生学	解剖

(五十音順)

技術者累計	1級 (累計)	2級 (累計)
解剖技術者	1 (71)	3 (220)
細胞組織技術者	1 (6+※1) ※1: 旧・組織30、旧特殊組織7	3 (16+※2) ※2: 旧・組織171、旧・特殊組織66

4. 2018年度決算および会計監査報告の件

決 算 報 告 書

(第6期)

自 2018年 1月 1日

至 2018年12月31日

一般社団法人日本解剖学会

東京都豊島区駒込 1 丁目 4 3 番 9 号

正味財産増減計算書

2018年1月1日から2018年12月31日まで

一般社団法人 日本解剖学会

(単位:円)

番号	科目	当年度	前年度	増減
1	I 一般正味財産増減の部			
2	1 経常増減の部			
3	(1) 経常収益			
4	① 基本財産運用益	10,162	10,162	0
5	基本財産受取利息	10,162	10,162	0
6	② 特定資産運用益	108	107	1
7	名簿作成積立資産受取利息	12	11	1
8	特別事業積立資産受取利息	96	96	0
9	③ 受取入会金	118,000	128,000	△ 10,000
10	受取入会金	118,000	128,000	△ 10,000
11	④ 受取会費	21,655,000	20,931,000	724,000
12	正会員受取会費	13,971,000	13,772,000	199,000
13	代議員会員受取会費	4,567,000	4,072,000	495,000
14	終身会員受取会費	1,080,000	720,000	360,000
15	学生会員受取会費	749,000	892,000	△ 143,000
16	団体会員受取会費	708,000	795,000	△ 87,000
17	賛助会員受取会費	580,000	680,000	△ 100,000
18	⑤ 事業収益	29,216,330	26,759,943	2,456,387
19	全国学術集会収入	22,876,733	23,021,036	△ 144,303
20	支部学術集会収入	4,264,500	3,004,600	1,259,900
21	会誌等頒布収入	1,520,697	468,307	1,052,390
22	広告掲載料収入	491,400	216,000	275,400
23	技術者審査・登録料収入	47,000	18,000	29,000
24	名簿頒布収入	16,000	32,000	△ 16,000
25	⑥ 雑収益	297,282	164,518	132,764
26	受取利息	155	129	26
27	雑収益	297,127	164,389	132,738
28	経常収益計	51,296,882	47,993,730	3,303,152
29	(2) 経常費用			
30	① 事業費	42,817,032	42,565,301	251,731
31	全国学術集会	21,106,667	22,521,036	△ 1,414,369
32	支部学術集会	4,958,168	3,763,536	1,194,632
33	会誌制作費	6,072,852	6,010,956	61,896
34	会誌編集費	108,000	108,000	0
35	会誌発送費	1,186,766	1,204,198	△ 17,432
36	奨励賞、功労賞関係費	181,450	154,194	27,256
37	海外交流関係費	300,000	0	300,000
38	技術者認定業務費	38,040	56,945	△ 18,905
39	学術会議関連シンポジウム費	0	100,000	△ 100,000
40	委員会運営費	1,106,450	460,457	645,993
41	日本篤志献体協会	100,000	100,000	0
42	生物科学学会連合会費	50,000	50,000	0
43	男女共同参画学協会連合会費	10,000	10,000	0
44	脳科学関連学会連合会費	30,000	30,000	0
45	日本医学会連合会費	144,450	144,100	350
46	名簿販売手数料	1,620	4,320	△ 2,700
47	ホームページ運営費	440,802	398,034	42,768
48	会議費	931,234	1,375,182	△ 443,948
49	旅費交通費	185,207	342,821	△ 157,614
50	印刷費	851,067	731,451	119,616
51	通信費	505,265	520,422	△ 15,157
52	事務所賃借料	324,000	324,000	0
53	事務委託費	3,941,994	3,858,271	83,723
54	諸謝金	243,000	297,378	△ 54,378

55	② 管理費	1,470,833	1,465,122	5,711
56	ホームページ運営費	48,978	44,226	4,752
57	会議費	103,470	152,798	△ 49,328
58	旅費交通費	20,579	38,091	△ 17,512
59	印刷費	94,563	81,272	13,291
60	通信費	56,140	57,825	△ 1,685
61	事務所賃借料	36,000	36,000	0
62	事務委託費	437,999	428,697	9,302
63	支払報酬	453,600	453,600	0
64	諸謝金	27,000	33,042	△ 6,042
65	租税公課	70,000	70,000	0
66	雑費	122,504	69,571	52,933
67	経常費用計	44,287,865	44,030,423	257,442
68	評価損益等調整前当期経常増減額	7,009,017	3,963,307	3,045,710
69	評価損益等計			0
70	当期経常増減額	7,009,017	3,963,307	3,045,710
71	2 経常外増減の部			
72	(1) 経常外収益			
73	経常外収益計	0	0	0
74	(2) 経常外費用			0
75	経常外費用計	0	0	0
76	当期経常外増減額	0	0	0
77	当期一般正味財産増減額	7,009,017	3,963,307	3,045,710
78	一般正味財産期首残高	74,272,828	70,309,521	3,963,307
79	一般正味財産期末残高	81,281,845	74,272,828	7,009,017
80	Ⅱ 指定正味財産増減の部			0
81	当期指定正味財産増減額	0	0	0
82	指定正味財産期首残高	0	0	0
83	指定正味財産期末残高	0	0	0
84	Ⅲ 正味財産期末残高	81,281,845	74,272,828	7,009,017

貸借対照表

2018年12月31日現在

一般社団法人 日本解剖学会

(単位:円)

番号	科目	当年度	前年度	増減
1	I 資産の部			
2	1. 流動資産			
3	現金預金	46,327,746	41,340,960	4,986,786
4	未収入金	235,932	148,906	87,026
5	前払費用	1,030,000	1,030,000	0
6	貯蔵品	336,235	151,565	184,670
7	流動資産合計	47,929,913	42,671,431	5,258,482
8	2. 固定資産			
9	(1) 基本財産			
10	定期預金	20,000,000	20,000,000	0
11	基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
12	(2) 特定資産			
13	名簿作成積立資産	1,653,083	1,438,691	214,392
14	特別事業積立資産	12,744,724	11,274,562	1,470,162
15	特定資産合計	14,397,807	12,713,253	1,684,554
16	(3) その他固定資産			
17	敷金	60,000	60,000	0
18	その他固定資産合計	60,000	60,000	0
19	固定資産合計	34,457,807	32,773,253	1,684,554
20	資産合計	82,387,720	75,444,684	6,943,036
21	II 負債の部			
22	1. 流動負債			
23	未払金	169,375	160,356	9,019
24	未払法人税等	52,500	52,500	0
25	前受金	762,000	952,000	△ 190,000
26	流動負債合計	983,875	1,164,856	△ 180,981
27	2. 固定負債			
28	長期前受金	122,000	7,000	115,000
29	固定負債合計	122,000	7,000	115,000
30	負債合計	1,105,875	1,171,856	△ 65,981
31	III 正味財産の部			0
32	1. 指定正味財産			0
33	指定正味財産合計	0	0	0
34	(うち基本財産への充当額)			0
35	(うち特定資産への充当額)			0
36	2. 一般正味財産	81,281,845	74,272,828	7,009,017
37	(うち基本財産への充当額)	(20,000,000)	(20,000,000)	0
38	(うち特定資産への充当額)	(14,397,807)	(12,713,253)	(1,684,554)
39	正味財産合計	81,281,845	74,272,828	7,009,017
40	負債及び正味財産合計	82,387,720	75,444,684	6,943,036

0

0

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小 計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
名簿作成積立資産	1,438,691	216,012	1,620	1,653,083
特別事業積立資産	11,274,562	1,470,162	0	12,744,724
小 計	12,713,253	1,686,174	1,620	14,397,807
合 計	32,713,253	1,686,174	1,620	34,397,807

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、以下のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応す る額)
基本財産				
定期預金	20,000,000	(0)	(20,000,000)	—
小 計	20,000,000	(0)	(20,000,000)	—
特定資産				
名簿作成積立資産	1,653,083	(0)	(1,653,083)	—
特別事業積立資産	12,744,724	(0)	(12,744,724)	—
小 計	14,397,807	(0)	(14,397,807)	—
合 計	34,397,807	(0)	(34,397,807)	—

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2. に記載しているため省略する。

財産目録

(2018年12月31日現在)

一般社団法人 日本解剖学会

(単位:円)

番号	科 目	金 額		
1	I 資産の部			
2	1 流動資産			
3	現金預金	46,327,746		
4	普通預金 三井住友信託銀行本店営業部 #4616526	1,520,179		
5	普通預金 三菱UFJ銀行駒込支店 #1178366	13,287,171		
6	普通預金 三菱UFJ銀行駒込支店 #1175318	2,589,232		
7	普通預金 ゆうちょ銀行 #00160-6-78262	22,375,772		
8	普通預金 ゆうちょ銀行 #00170-6-73195	6,555,392		
9	未収金	235,932		
10	広告バナー掲載料	129,600		
11	第74回九州支部学術集会運営費剰余金	106,332		
12	前払費用	1,030,000		
13	第124回総会全国学術集会	1,000,000		
14	学会センタービル賃借料2019年1月分	30,000		
15	貯蔵品	336,235		
16	奨励賞・功労賞メダル	336,235		
17	流動資産合計		47,929,913	
18	2 固定資産			
19	(1) 基本財産			
20	定期預金			
21	三井住友信託銀行本店営業部 #96426950-01	20,000,000		
22	基本財産合計	20,000,000		
23	(2) 特定資産			
24	名簿作成積立資産	1,653,083		
25	普通預金 三菱UFJ銀行駒込支店 #0066656	1,653,083		
26	特別事業積立資産	12,744,724		
27	普通預金 三菱UFJ銀行駒込支店 #0100293	12,744,724		
28	特定資産合計	14,397,807		
29	(3) その他固定資産			
30	敷金	60,000		
31	イースタン・リアル・エステイト株式会社	60,000		
32	その他固定資産合計	60,000		
33	固定資産合計		34,457,807	
34	資産合計			82,387,720
35	II 負債の部			
36	1 流動負債			
37	未払金	169,375		
38	一般財団法人口腔保健協会	169,375		
39	未払法人税等	52,500		
40	法人都民税均等割	52,500		
41	前受金	762,000		
42	2019年度入会金、会費	762,000		
43	流動負債合計		983,875	
44	2 固定負債			
45	長期前受金	122,000		
46	2020年度会費	122,000		
47	固定負債合計		122,000	
48	負債合計			1,105,875
49	正味財産			81,281,845

監 査 報 告 書

一般社団法人日本解剖学会

理事長 岡部 繁男 殿

一般社団法人日本解剖学会

監事 松村 譲児 ⑩

監事 渡辺 雅彦 ⑩

私たちは、一般社団法人日本解剖学会の2018年1月1日から2018年12月31日までの第5期事業年度における会計及び業務の実施状況の監査を行いました結果、次のとおり報告致します。

1. 監査方法の概要

- (1) 各監事は、会計帳簿及び関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を実施し、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書、ならびに財産目録の正確性を検討しました。
- (2) 各監事は、理事会等の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、必要に応じて説明を求め、関係書類の閲覧、その他必要と思われる監査手続を実施し、理事の業務遂行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 事業報告の内容は真実であることを認めます。
- (2) 計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書、ならびに財産目録は、法人の財政及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の職務執行に関して、不正行為または法令、もしくは定款に違反する重大な事実はありません。

以上

独立監査人の監査報告書

2019年3月11日

一般社団法人日本解剖学会
理事会 御中

小出將恵公認会計士事務所
公認会計士 小 出 將 恵 印

私は、定款第22条の規定に基づき、一般社団法人日本解剖学会の2018年1月1日から2018年12月31日までの第6期事業年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドラインⅡ-4の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及びその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事長が必要と判断した内部統制を整備及び運用する事が含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積もりの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討する事が含まれる。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

一般社団法人日本解剖学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

5. 2019年度予算および事業計画の件

一般社団法人日本解剖学会 2019年度事業計画(案)

事業	2019年度（2019年1月1日～12月31日）
学術集会の開催	本部 1回 第124回全国学術集会 会期：2019年3月27日～29日 会場：朱鷺メッセ 支部 6回 第65回東北・北海道連合支部学術集会 第107回関東支部学術集会 第79回中部支部学術集会 第95回近畿支部学術集会 第74回中国四国支部学術集会 第75回九州支部学術集会
学術誌等の刊行	英文誌「Anatomical Science International」刊行 年4回 和文誌「解剖学雑誌」刊行 年1回 解剖学雑誌の電子化
研究の奨励及び業績の表彰	奨励賞の選考、表彰 認定技術者功労賞の表彰
研究活動	解剖学用語の検討 各種懇談会・研究会の開催
認定技術者の審査	認定一級技術者認定試験 2019年9月実施予定 認定二級技術者審査 認定審査は随時実施 認定一級技術者認定試験過去問（2006年以降）公開
各種会合	定時社員総会：3月 常務理事会：年5回（予定） 理事会：年3～5回（予定） 各種委員会：総会・全国学術集会時 その他随時
広報活動	学会ホームページの拡充、ならびにアウトリーチ活動
国際会議関係	A P I C Aへの協力 諸外国の解剖関連学会（AG，KAAなど）との相互交流
その他	他学会（日本生理学会、日本顕微鏡学会）との連携 （学術集会開催、学術誌の刊行など）の推進 若手研究者の育成・研究奨励

収 支 予 算 書

2019年1月1日から2019年12月31日まで

一般社団法人 日本解剖学会

(単位:円)

番号	科 目	当年度	前年度	増 減
1	I 一般正味財産増減の部			
2	1 経常増減の部			
3	(1) 経常収益			
4	① 基本財産運用益	10,000	10,000	0
5	基本財産受取利息	10,000	10,000	0
6	② 特定資産運用益	200	100	100
7	名簿作成積立資産受取利息	100	0	100
8	特別事業積立資産受取利息	100	100	0
9	③ 受取入会金	150,000	150,000	0
10	受取入会金	150,000	150,000	0
11	④ 受取会費	20,594,000	21,228,000	△ 634,000
12	正会員受取会費	13,653,000	14,013,000	△ 360,000
13	代議員受取会費	4,229,000	4,255,000	△ 26,000
14	終身会員受取会費	840,000	960,000	△ 120,000
15	学生会員受取会費	659,000	696,000	△ 37,000
16	団体会員受取会費	673,000	744,000	△ 71,000
17	賛助会員受取会費	540,000	560,000	△ 20,000
18	⑤ 事業収益	28,210,000	35,524,000	△ 7,314,000
19	全国学術集会収入	23,350,000	31,340,000	△ 7,990,000
20	支部学術集会収入	3,400,000	3,400,000	0
21	会誌等頒布収入	1,166,000	470,000	696,000
22	名簿頒布収入	20,000	40,000	△ 20,000
23	広告掲載収入	233,000	233,000	0
24	技術者審査・登録料収入	41,000	41,000	0
25	⑥ 受取寄付金	20,000	20,000	0
26	受取寄付金	20,000	20,000	0
27	⑦ 雑収益	158,000	158,000	0
28	受取利息	1,000	1,000	0
29	雑収益	157,000	157,000	0
30	経常収益計	49,142,200	57,090,100	△ 7,947,900
31	(2) 経常費用			
32	① 事業費	48,621,300	52,881,700	△ 4,260,400
33	全国学術集会	24,350,000	32,340,000	△ 7,990,000
34	支部学術集会	4,100,000	4,200,000	△ 100,000
35	会誌制作費	6,120,000	6,012,000	108,000
36	会誌編集費	108,000	108,000	0
37	会誌発送費	1,140,000	1,140,000	0
38	名簿販売委託料	2,500	5,000	△ 2,500
39	奨励賞、功労賞関係費	97,000	372,000	△ 275,000
40	海外交流関係費	300,000	300,000	0
41	技術者認定業務費	150,000	90,000	60,000
42	日本篤志献体協会	100,000	100,000	0
43	学術会議関連シンポジウム費	100,000	100,000	0
44	生物科学学会連合費	50,000	50,000	0
45	男女共同参画学協会連絡会費	15,000	10,000	5,000
46	日本脳科学関連学会連合費	30,000	30,000	0
47	日本医学会連合会費	150,000	150,000	0
48	委員会運営費	1,108,000	600,000	508,000
49	特別事業費	2,500,000	0	2,500,000
50	ホームページ運営費	432,000	432,000	0
51	会議費	1,638,000	900,000	738,000
52	旅費交通費	429,300	243,000	186,300
53	印刷費	666,000	666,000	0
54	通信費	540,000	540,000	0
55	事務所賃借料	324,000	324,000	0
56	事務委託費	3,793,500	3,836,700	△ 43,200
57	諸謝金	378,000	243,000	135,000
58	雑費	0	90,000	△ 90,000

収 支 予 算 書

2019年1月1日から2019年12月31日まで

一般社団法人 日本解剖学会

(単位:円)

番号	科 目	当年度	前年度	増 減
59	② 管理費	1,835,200	1,422,300	412,900
60	ホームページ運営費	48,000	48,000	0
61	会議費	182,000	100,000	82,000
62	旅費交通費	47,700	27,000	20,700
63	印刷費	74,000	74,000	0
64	通信費	60,000	60,000	0
65	事務所賃借料	36,000	36,000	0
66	事務委託費	421,500	426,300	△ 4,800
67	諸謝金	496,000	481,000	15,000
68	租税公課	70,000	70,000	0
69	雑費	400,000	100,000	300,000
70	経常費用計	50,456,500	54,304,000	△ 3,847,500
71	評価損益等調整前当期経常増減額			
72	評価損益等計			
73	当期経常増減額	△ 1,314,300	2,786,100	△ 4,100,400
74	2 経常外増減の部			
75	(1) 経常外収益			
76	経常外収益計	0	0	0
77	(2) 経常外費用			
78	経常外費用計	0	0	
79	当期経常外増減額	0	0	0
80	当期一般正味財産増減額	△ 1,314,300	2,786,100	△ 4,100,400
81	一般正味財産期首残高	74,272,828	70,309,521	3,963,307
82	一般正味財産期末残高	72,958,528	73,095,621	△ 137,093
83	Ⅱ 指定正味財産増減の部			
84	当期指定正味財産増減額	0	0	0
85	指定正味財産期首残高	0	0	0
86	指定正味財産期末残高	0	0	0
87	Ⅲ 正味財産期末残高	72,958,528	73,095,621	△ 137,093

6. 2020年度予算執行の件

2020年1月～3月（定時社員総会開催まで）の予算執行を理事会にて決定する。

7. 第126回（2021年度）ならびに第127回（2022年度）総会・全国学術集会開催担当校の件

第126回総会・全国学術集会は第98回日本生理学会大会との合同大会として開催すること、担当校に名古屋大学、会頭に機能組織学の木山博資先生を推薦したい。また、第127回総会・全国学術集会担当校に大阪大学を、会頭に神経機能形態学の佐藤 真先生を推薦したい。

8. 2019・2020年度役員選任の件

2018年10月18日

一般社団法人日本解剖学会次期代議員 各位

一般社団法人日本解剖学会 選挙管理委員会

委員長 近藤信太郎

委 員 小澤 一史 小林 靖 下田 信治

野中 直子 萩原 治夫 山本 仁

謹啓

時下益々御清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、10月17日に選挙管理委員会を、一般財団法人口腔保健協会にて開催し、過日行われました日本解剖学会2019・2020年度役員選出選挙の開票を行いました。以下の開票結果につきましては直ちに理事長に報告書を提出致しました。以上、御報告申し上げます。

敬具

—記—

投票結果

有権者数323名、投票総数183通（56.66%）

有効通数182通、無効通数 1通（複数投票1通）

監事開票結果（敬称略）

有効通数182通、投票総数310通のうち 有効票数310票、無効票数0票

理事開票結果（敬称略）

有効通数182通、投票総数479通のうち 有効票数479票、無効票数0票

監事（定員2名）

★1.	渡辺 雅彦	23票
2.	木山 博資	20票
次点	藤本 豊士	17票
次々点	島田 昌一	15票

中部支部（定員3名）

※1.	千田 隆夫	9票
※2.	堀 修	9票
※3.	尾崎 紀之	6票
※4.	宮田 卓樹	6票

理事

北海道支部（定員1名）

★1.	渡辺 雅彦	15票
次点	辰巳 治之	1票

近畿支部（定員3名）

1.	西 真弓	12票
2.	佐藤 真	7票
3.	八木 秀司	6票
次点	和中 明生	5票

東北支部（定員1名）

1.	八木沼洋行	9票
※次点	笹野 泰之	2票
※次々点	人見 次郎	2票

中国・四国支部（定員2名）

1.	篠田 晃	14票
※2.	大塚 愛二	5票
※次点	大谷 浩	5票

関東支部（定員5名）

1.	岡部 繁男	29票
2.	牛木 辰男	27票
3.	小澤 一史	22票
4.	天野 修	11票
5.	野田 泰子	10票
※次点	阪上 洋行	10票

九州支部（定員2名）

1.	小路 武彦	16票
2.	福田 孝一	9票
次点	澤口 朗	3票

※「役員選出細則」第4条（5）により、得票数が同数の者の中から当選人を決定する場合には、年長の者を優先します（理事選挙：東北、関東、中部、ならびに中国・四国の各支部が該当）。

★ 監事につきましては、「まず理事を決定し、次に監事を決定する」と役員選出細則第4条（4）に規定されておりますので、渡辺先生は理事への就任が優先されます。

以上

9. 役員選出細則、ならびに委員会設置規程の一部改正の件

次期役員選挙をオンライン投票で実施し、円滑に運営できた。これを受けて、次回以降も同方式で実施したく、選挙乖離委員会定数の減とオンライン投票に即した内容の修正を提案したい。また、第8条の時限特別措置についても男女共同参画推進の見地から3期6年間、期間延長することを併せて提案したい

一般社団法人日本解剖学会 役員選出細則（改正案）

（目的）

第1条 本細則は、一般社団法人日本解剖学会（以下「本会」という。）定款第19条に基づき、役員の選出に関し、必要な事項を定めるものである。

（理事及び監事の選出）

第2条 理事は、支部ごとに、その支部に所属する代議員の互選により選出し、社員総会の承認を得るものとする。

（1）理事は、北海道支部1名、東北支部1名、関東支部5名、中部支部3名、近畿支部3名、中国・四国支部2名、九州支部2名とする。

（2）理事が所属する支部を変更したときは、定款第19条4項のとおりとする。

第3条 監事は、代議員の互選により選出し、社員総会の承認を得るものとする。

（理事及び監事の選出方法）

第4条 理事及び監事の選出は、無記名**郵便**投票による。

（1）選挙は、役員の任期満了の30日前までに行わなければならない。

（2）理事は、支部ごとに、定数内の連記投票による。

（3）監事は、支部を問わずに、2名連記投票による。

（4）理事と監事の選挙を同時に行うときは、まず理事を決定し、次に監事を決定する。

（5）投票数が同数の者の中から当選者を決定する場合には、年長の者を優先する。生年月日も同一の場合は、会員歴が古い者を優先する。

（6）役員の再任は妨げない。ただし、同一職連続3期を越えることはできない。

（役員の欠員）

第5条 理事及び監事に欠員を生じたときは、次点者を繰り上げ当選とする。ただし、その任期は前任者の残任期間とする。常務理事に欠員が生じた場合には、理事の欠員を補充したのち互選により再選出する。ただし、常務理事の残任期間が短い場合には他の常務理事が職務を兼務することを妨げない。

（選挙管理委員会の設置）

第6条 役員選出のため、選挙管理委員会を置く。委員会構成等については委員会設置規程第2条に定める。

（改廃）

第7条 本細則の改廃は、社員総会の決議により行い、会員に報告する。

（時限特別措置）

第8条 第2条（1）による理事選出の結果、理事における男女共同参画の観点から必要と判断された場合には、定款第18条の規定数を充足する数を上限として、新理事長は追加の理事を定時社員総会に追加推薦することが出来る。推薦にあたっては、第2条（1）による理事選出結果を考慮するものとする。なお、この措置は平成30年度定時社員総会終結時までの時限特別措置とする。

附 則

1. 本細則は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（整備法）第121条1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める一般社団法人設立の登記の日から施行する。

2. 本細則は、平成25年3月29日より施行する。

3. 本細則は、平成26年3月28日より施行する。

4. 本細則は、平成31年3月27日より施行する。第8条で定める時限特別措置は平成36年度定時社員総会終結時まで延長するものとする。

一般社団法人日本解剖学会委員会設置規程（抜粋：改正案）

（選挙管理委員会）

第2条 選挙管理委員会は、理事会から委嘱されたすべての選挙を管理、執行し、その結果を理事長に報告する。

2 選挙管理委員会は委員74名をもって組織し、互選により内1人を委員長とする。

3 委員は役員を除く正会員の中から理事長が委嘱し、任期は2年とする。ただし、再任を妨げないが、3期6年を越えないものとする。なお、任期途中で委員が交代した場合、交代した委員の任期は前任者の残任期間とする。

附 則

5. 本規程は、平成31年3月27日より施行する。

10. 著作権に関する規程制定の件

商用目的での転載許諾申請があったことを受けて、本規程を制定することを提案したい。

一般社団法人日本解剖学会著作権に関する規程（案）

（目的）

第1条 この規程は、一般社団法人日本解剖学会（以下、本会という）が有する著作権に関する基本的事項を定める。

（用語）

第2条 この規程において用いる用語の定義は次の各号の通りとする。なお、著作権に関し、本規程に規定されていない事項については日本国著作権法（以下、著作権法という）に拠るものとする。

1) 著作権 著作権法第21条から第28条までに規定されたすべての権利をいう。

2) 著作物 著作権法第2条第1項第1号に規定された著作物をいう。

3) 著作者 著作権法第2条第1項第2号に定める著作物を創作する者をいう。

（著作権の帰属）

第3条 本会が編集または発行する著作物の著作権は、本会が定めた形式によって帰属されるものとする。これにより、著作者自身を著作権管理に関わる事項から解放、また著作物の周知性の向上を支援するなど、著作者の便益の拡大を図り、また本会が独立した団体として、企業やその他の団体または個人と著作権に関わる交渉ができるようにする。

（著作権の譲渡）

第4条 著作者から本会への著作権の譲渡は、著作者が本会の著作権に関する内容を確認し、著作権譲渡同意に関する書類を添付の上、投稿または寄稿することによって成立する。

2 前項提出後、当該著作物が掲載不可となった場合は、その時点で前項は無効となる。

（著作権利用の許諾）

第5条 本会に帰属する著作権を利用する場合は、本会の許諾を必要とする。許諾は、原則として事前に文書によるものとする。

2 著作者自身が、自分の用途のために自分の著作物の全部または一部を複製して利用する場合、主として商用（製薬会社の販促用資料等）を目的とする場合を除き前項の許諾を必要とせず、また、本会は原則的に異議の申し立てを行ったり妨げたりすることはしない。

3 著作者以外の個人または団体が、本会に帰属する著作権の全部または一部を主として商用目的に利用する場合、本会は別表にて定める使用料金の支払いを受けて許諾する。

（著作者の責任）

第6条 本会が編集または発行する著作物の内容については、その著作者自身が責任を負うものとする。

2 本会が編集または発行する著作物が他人から著作権侵害として提訴され、もしくは当該侵害に関し紛争が生じた場合、あるいは他人の名誉を傷つける等の紛争が生じた場合は、原則としてその著作者が責任を負いまたは処置するものとする。

（侵害排除等）

第7条 他人から著作権が侵害された場合は、本会が当該著作者と協力してその侵害を排除する等これを処置する。

2 前項の著作者は、他人から著作権の侵害等を受けたことを知った場合は、速やかに本会に通知するものとする。

（既発行の著作物の取り扱い）

第8条 この規程の施行以前に本会が編集または発行した著作物についても、この規程を準用する。

（規程の改廃）

第9条 本規程の改廃は、理事会の議を経て、社員総会にて議決し、会員に報告する。

附 則

1. 本規程は平成31年3月27日より施行する。

別表1：紙等媒体を頒布して利用する場合の転載利用に係る使用料

利用部数	1～5,000部	5,001～10,000部	10,001～15,000部	15,001部以上
使用料 (1転載あたり)	60,000円＋税	85,000円＋税	110,000円＋税	110,000円＋税から 5,000部毎に 25,000円＋税ずつ増加

別表2：資料等を上映・公衆送信して利用する場合の転載複製に係る使用料

利用部数	スライド・動画	ウェブサイト	アプリケーションソフトウェア
使用料(1年間)	95,000円＋税	200,000円＋税	500,000円＋税
使用料(無期限)	120,000円＋税	600,000円＋税	500,000円＋税

※転載した内容を含む資料、書籍を電子媒体（CD、DVD等）にて配布もしくは販売する場合はコピープロテクトの処理を施すこと。あるいは、Web上でそれらの資料、書籍を公開する場合はダウンロードができない処理を施すこと。

11. 定款、ならびに代議員選出規程の一部改正の件

会員数ならびに解剖学教室の減少に伴い、代議員数も年々減少している（2018年末：324名）。2020年中にも現在の定款で定められている下限：300名を割り込む可能性があることから、一部改正を行って「200名以上500名以下」とすることを提案したい。

また、役員就任日についても「就任日時点で」という文言を追加することで基準日を明確化することも提案したい。

「定款改正箇所」

第19条第5項 役員就任日を明確化
第25条第1項 代議員下限値を変更

「代議員選出規程改正箇所」

第2条第1項 代議員下限値を変更

一般社団法人日本解剖学会定款（抜粋）

（役員及び会計監査人の選任、資格の喪失、定年）

第19条 本法人の理事及び監事の選任は、本法人の代議員の中から役員選出細則に定めるところにより候補者を選出し、社員総会において選任する。理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

（中略）

5 役員就任の予定日に満65歳以上になる代議員は役員候補者の選出時点で被選挙権を持たない。満65歳以上の代議員は、役員に就任することはできない。

（代議員の選任）

第25条 本法人には300名以上500名以内の代議員を置く。

附 則

8 本定款は平成25年11月30日より施行する。

9 本定款は平成31年3月27日より施行する。

一般社団法人日本解剖学会 代議員選出規程（抜粋）

（定 数）

第2条 本法人に、300名以上500名以内の代議員を置く。

附 則 本規程は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（整備法）第121条1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める一般社団法人設立の登記の日から施行する。

2 本規程は平成31年3月27日より施行する。

12. 会計監査人交代の件

会計監査人である小出 将恵 公認会計士（小出将恵公認会計士事務所）より、高齢による交代の申出があったこと。常務理事会・理事会で検討した結果、後任者として高岸 圭 公認会計士（東京都町田市開業）を後任者とすることを提案したい。